



# 森林ふれあい情報

令和2年3月  
第54号

林野庁中部森林管理局  
木曽森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

## 木曽谷支援の取組「中山道木曽十一宿パズルラリー 第2弾」

平成26年に発生した御嶽山噴火災害等により、木曽谷の観光産業は大きな打撃を受け、5年が経過する現在でも落ち込んだ観光客数に回復の兆しはあるものの、災害発生前の水準に戻っておらず、多大な影響を受けています。

こうした中、当センターでは木曽谷の観光ルートである木曽街道にちなみ、平成29年度から「中山道 木曽十一宿パズルラリー第1弾」を実施し、準備した数量が終了したことから、令和2年1月から第2弾を実施しています。

これは、過去の歴史上の偉人、文豪等により高められた「木曽」ブランドを求めて訪れる観光客に、11の旧宿場跡をつなぐパズルラリーに参加してもらうことにより、観光客数の増加や木曽谷の連帯強化への波及を期待するものです。

実施内容は、中山道の11宿を木曽郡木曽町と上松町を境に「北部」と「南部」に分け、江戸時代の浮世絵師「歌川広重」が描いた絵を用い、北部は「奈良井宿」、南部は「須原宿」の絵を、地元産ヒノキ間伐材の板に直接カラー印刷したものを6分割し、木曽地域7市町村別に1ピースずつ置き、中山道沿いにある各観光案内所等を巡って、6枚のピースを集めると絵が完成します。

この集めたピース6枚を写真に撮り、当センターへ送ると貼り板、台座を進呈するものです。なお、下の写真のように貼り合わせると完成です。

### パズルピース配布箇所

#### 北部

贄川宿：贄川関所  
奈良井宿：奈良井観光案内所  
藪原宿：笑ん館  
宮ノ越宿：宮ノ越本陣  
福島宿：福島関所資料館  
木曽福島駅前観光案内所

#### 南部

上松宿：ねざめ亭  
須原宿：大桑村女性・若手交流センター  
野尻宿：大桑村野尻出張所  
三留野宿：南木曽駅観光案内所  
妻籠宿：妻籠観光案内所  
馬籠宿：馬籠観光案内所



完成品（南部の奈良井宿）



完成品（北部の須原宿）

※ピースに使用した浮世絵は、木曽路美術館（上松町）の協力を得て作成しました。

## ニホンジカ対策への取組

深刻化しているニホンジカによる森林及び高山植物への被害について、木曾地域では顕著に現れていない状況ですが、中央アルプス山麓ではニホンジカが確認されています。

今後、各地への被害が懸念されており、木曾森林管理署及び木曾森林管理署南木曾支署では実態に応じた対策が進められています。

当センターでも関係機関等との連携を図り、センサーカメラ及びライトセンサスによる生息調査、クマ錯誤捕獲防止実証試験を行っています。

### センサーカメラによる生息調査

センサーカメラによる生息調査は、平成28年度から中央アルプス山麓及び高山帯にセンサーカメラを設置し、ニホンジカの移動状況等の観測を行っており、確認された地点ではセンサーカメラを増設するなど監視を続けています。

平成30年度に中央アルプス南部に設置した空木岳周辺の木曾殿山荘周辺の標高2,450m付近でニホンジカのオスの生息が確認されました。

なお、空木岳登山道の7合目と8合目周辺に設置したセンサーカメラでは、ニホンジカの生息が確認できなかったことから、伊那谷方面からニホンジカが移動してきたものと推測されます。

また、昨年度に引き続き御嶽山の長野県側に2台（中の湯跡、女人堂付近）のセンサーカメラを7月～10月までの間設置し、調査を行いました。ニホンジカを確認することはできませんでした。



木曾殿山荘周辺で撮影されたオスジカ

### ライトセンサスによる生息調査



ライトセンサスによる調査

ライトセンサスによる生息調査は、平成29年度から中央アルプス山麓の国有林等での調査に加え、御嶽山八合目の岐阜県側でニホンジカが確認がされたことから、長野県側の御嶽山麓王滝村「おんたけ2240スキー場（標高1,680m～2,240m）」を中心に、実施箇所を追加して調査を行いました。

実施方法は5月～11月の間で、日没後、長野県木曾地域振興局 林務課及び木曾森林管理署と合同で、7・8月を除き月に1～2回程度調査を行いました。

調査した結果、どちらもニホンジカを目撃するには至りませんでした。

## クマ 錯誤捕獲防止実証試験

ニホンジカの被害対策として、くくりワナによる捕獲を実施しているなかで、クマの錯誤捕獲と見廻りの省力化が課題となっています。このことから中央アルプス山麓国有林において、クマ錯誤捕獲防止実証試験を地元猟友会に委託し、10～11月の間で実施しました。

当試験はクマの錯誤捕獲を防止し、ニホンジカ等を確実に捕獲することを目的として、10月18日から11月11日までの期間、木曽郡木曽町の八沢入国有林内にY式トラップ+イノシカ御用を10箇所（No. 1～10）とセンサーカメラ10台を設置して調査した結果、イノシシ及びニホンジカを捕獲することはできませんでしたが、No. 8の設置箇所（イノシカ御用のみ）で手足の大きなクマがワナを踏んだにもかかわらずかかわずかかると通過していく映像と、同箇所では手足の小さなイノシシがワナを踏みかけてかかりそうになったところ、咄嗟に前足を引きあげた映像が確認できました。

今回は1例のみとなりましたが、イノシカ御用がクマ錯誤捕獲防止になりニホンジカ等の捕獲に繋がる結果と期待できる結果となりました。

今後も、ワナの設置数を増やして同実証試験を継続し、クマの錯誤捕獲防止とニホンジカ等が捕獲できる試みを実施したいと考えてます。



Y式トラップ



Y式トラップ+イノシカ御用



ワナの上を通過するクマ



ワナに掛かりそこなったイノシシ

ニホンジカ対策への取組は検討すべき課題が沢山ありますが、関係機関等と連携しながら引き続き進めたいと考えています。

# 森林技術交流発表会

## 中部森林学会

第9回中部森林学会大会が令和元年12月7日に岐阜大学で開催され、当センターからは「事業規模での木曽ヒノキ天然更新実証試験についてー70%漸伐試験地における20年間の調査データからー」と題し森林総合研究所と共同で発表しました。

本研究はササが繁茂する湿性ポドゾル土壌を中心とするせき悪な土壌分布域における木曽ヒノキの天然更新試験地として、中部森林管理局が設定した試験地（助六実験林）の20年間の調査結果をとりまとめた内容となっています。具体的には、漸伐と周期的なササ抑制剤散布が、天然更新の成功につながったことについて報告しました。

なお、本調査は平成11年から29年までは局事業として、平成30年からは当センターが主体となり信州大学及び森林総合研究所と共同で調査を行っています。



中部森林学会で発表する早川自然再生指導官

## 中部森林管理局

令和元年度中部森林技術交流発表会が1月29～30日に中部森林管理局で開催され、「木曽ヒノキ天然更新のためのササ制御とその効果について」と題し木曽森林管理署と当センターとの共同で発表しました。

今回の発表は木曽森林管理署管内三浦国有林で、平成26年から木曽ヒノキの天然更新を図るため取り組んでいる刈払いなどのササ処理を実施している試験についての報告です。

ササ処理と伐採方法などの違いから、ササの繁茂状況やヒノキ実生の発生に差が現れたことから、その状況と今後の展望について報告を行いました。



交流発表会での発表の様子